

日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士

西山 好美 先生

勤務先：公立羽咋病院

出身地：石川県

資格取得年：2003年4月

1. 資格取得のきっかけは何でしたか？

当院では2000年に病棟業務がスタートし、私が配属された病棟は内科病棟で、糖尿病の患者さんを指導する機会がたびたびありました。その時に、いままで大学で学んだことは薬のことばかりで、病態のことはあまり知識がなく、これでは患者さんによりよい指導ができないと身にしみて感じました。その頃石川県では、糖尿病療養指導士を育成するための研修会が発足し、看護師の誘いもあり参加したところ、とても興味深く、楽しく勉強できたのがきっかけです。

2. 資格取得の最大の難所はどこでしたか？

最初の資格取得のときに、自験例10症例をまとめることと、その頃はまだ子育て中であったため、日本糖尿病療養指導士認定機構が開催する県外での単位取得の研修を受けに行くために家を空けることが大変でした。

3. この資格のやりがいは何ですか？

看護師や他のコ・メディカルから糖尿病薬について質問や相談を受けたり、当院の糖尿病専門医と患者さんの血糖コントロールについて色々と話し合いをして指導できる様になったことです。

4. 普段のお仕事でこの資格はどのように活用されていますか？

2004年から、当院の糖尿病対策チームの年間計画の一環として、毎年1年に1回、院内で日々変化している糖尿病薬についての研修会を開催し、特に新人看護師の教育に努めています。糖尿病のしおりを作成する時にあわせて、薬物療法についての編集も随時行っています。また血糖コントロール・教育目的で入院となった患者さんには看護師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師のそれぞれの糖尿病療養指導士がかかわり、チームで取り組んでいます。

5. 資格を取得して良かったな、と感じる事柄はありましたか？

血糖コントロール・教育目的で入院した患者さんが、退院後尋ねてきてくれ、HbA1c値が下がって安定してきたという近況報告をしてくれたり、現在困っていることについて相談に来てくれたときです。

また毎年、同年代の看護師、検査技師や栄養士（別名：おばさんチーム）と糖尿病学会に参加し、勉強もしてきますが、少し観光もして、良い思い出づくりができています。

6. 医師や看護師などとのディスカッションで気をつけていることはありますか？

医師の治療方針をまず確認し、それに基づいて指導するようにしています。また、看護師とは普段から患者さんの家族背景や生活環境を情報共有したうえで患者さんに接するようにしています。

7. 患者さんに接する際に気をつけていることはありますか？

自分が糖尿病であることを他の人に知られたくない患者さんには、個別指導する時の声の大きさに注意しています。

また糖尿病患者さんは、若い方から高齢の方まで色々な年代の方がいらっしゃいますが、理解度に合わせて個別的な指導をするように心がけています。

8. その他、苦心したり気を遣うことはどのようなことでしょうか？

血糖コントロール不良で入院・退院を何度も繰り返す患者さんに対して、どのようなことが問題になって繰り返しているのかを各コ・メディカルと十分に話し合い、意見を出し合い、薬剤師として何ができるかを考えながら指導しています。

9. この資格を目指している後進へ何かアドバイスを！

今後日本では、糖尿病患者さんはまだまだ増えてくると言われています。この資格を目指している薬剤師さんは、取得後にはきっと重要な役割を果たしていくと思っています。

また、糖尿病について勉強することで、自分自身や家族の生活習慣を見直すきっかけにもなりますので、ぜひ皆さん、この資格を取得してみたいはかがですか。

10. この資格の取得要件を教えてください。

- ・看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士のいずれかの資格を有していること
- ・2年以上継続して糖尿病療養指導業務に従事し、かつこの間に通算1,000時間以上糖尿病患者への療養指導を行うこと
- ・糖尿病療養指導業務に従事した期間に糖尿病療養指導の自験例が10例以上あること
- ・機構が開催する講習会を受講し、受講修了書を習得していること